

ウェイブセイリングを極めたければ、ボトムターンを極めろと言われる。特に誰もが希求するスピーディーなダウンザラインにおいてドライブするボトムターンは、必要不可欠な存在だ。そんなボトムターンにこだわり続けるライダーがいる。大きくフォアレイキしたセイル、フィンが抜けんばかりにフルにレイルが入ったボード、小さい体躯ながらもそのスタイルはダイナミックで鋭く、日本人の中でも屈指のドライビングフィール溢れるライディングを見せる松井重樹だ。これから彼のボトムターンに対するこだわりをここに紹介する。

Photos: TETSUYA SATOMURA, KENJI IKENOYA









### 松井流3つのポイント

## SPEED MAX

最も意識することは、最大速度をいかに確保するか

レイルが入り、大きく傾いたボード、そのボードに対してに垂直に内傾したマスト、そしてそのボードの上に、 ヒザが入りきっちりと乗り切った身体。松井の見事なカービング姿勢だ。 このハイスピード下でのターンにおけるバランス感覚を身体に覚え込ませることから始めたい。それには波の力を使ってワンランクスピードで上げたジャイブの練習も効果的。

松井のボトムターンの最大の特徴は、何と言ってもそのスピードだろう。現在でこそウェイブセイリングにおいて、ハイスピードなボトムターンは常識となってしまったが、そうなる前から彼のボトムターンは一足早くその領域に突入し、そしてそのスピードアップとともに、彼の御前崎における存在感や競技での実績も上昇していった。その松井は語る。

「ボトムターンはやはりスピードですね。いかに高 いスピードでターンに入り、いかにターン中もスピー ドを保つか最も意識しています。そのために波の力を フルに使って加速させることや、きっちり波のボトム まで降りて、面が出来るだけきれいなところでスピー ドロスが少ないターンに入ることが大切で、そのため に、どの波のどこを攻めていくかという波の選び方や ポジショニングというのもとても重視しています。高 いスピードのために、風の力だけではなく、波をフル に利用するということが、とても重要なことだと思い ます。普通の人はジャイブで練習することも有効です ね。波の背から波を追い越しながら乗せて加速させて ジャイブする。波で加速しますから普段より一段高い スピードのジャイブになります。僕も練習でよくやり ました。ただ漠然とジャイブしないで、また波に乗っ たら何でもマニューバーを刻もうとしないで、波が小 さい時とか、良くない時に、こうして速いスピードで のターン感覚を養っていくんです」





スピード感溢れるボトムターンのシークエンス。彼のボトムターンの特徴は、ターンの入りの急激で思い切りのいい前傾、その深い前傾がレイルのフルプッシュとともに内傾姿勢に変化し、さらに加速していくようなターン中盤にある。ここまでスピードが高くなると、進行風が強くなることもあってセイルはかえって軽く感じ、だから前傾姿勢もとれるようになり、逆にスピードがないとセイルに風が入り、そのパワーを受け止めなければならないためにお尻が残る後傾姿勢になってしまい、そこには一つの壁があると彼は言う。それを越えるにはターンの時にレイルの踏み込みを意識するよりも、とにかくスピードを上げて前に突っ込み、セイルが軽くなる領域に入ってしまうことだ。

波のボトムまでしっかりと下りて十分に加速し、スピードロスしにくい面がきれいなところでターンに入る。このようにスピードアップのために波を使い切ることととをはまれてあることは、技術的なことととをしっかりと覚えておこう。



ボトムターンのクールで理想的なシーンは、なんと言ってもそのフォアレイキしたセイル、前傾した体勢、大きく傾いたレイル、そしてハイスピードを感じさせる飛び散るスプレーだが(左)、最近主流になってきたコンケーブボードによって、変化してきていると松井は語る。コンケーブボードでは、スピードがありながら楽にタイトにカービングするので、それほど極端にフォアレイキさせることは少なくなった(右)。





# RAPID PUSHING

メリハリの利いたファーストプッシュで7割は決まる

波のポジショニングの重要性は前項でも述べてい るが、それは単にボトムターンに限ったことではない。 どの波のどのピークを狙うのか、波のポジショニング はマニューバーの組み立てを決定する最重要の要素で、 ボトムターンは最初となる。だからピークから下りる のか、そのピークに行くようにアプローチするのかな どの、ボトムターンのポジショニングは、マニューバ

ーそのものを決定する。

それと同じように、技術的にもボトムターンはマニ ューバーにおける最初の踏み込みとなる。

「最初の踏み込みで7割は決まってしまいますね、 僕の場合は。ここの踏み込みがうまく行けば、後はた いていうまくいくんです。逆に後半はあまり意識して いない」

「そして意識していることはメリハリですね。波が 大きい時やスピードがあれば、セイルも含めて体全体 で、逆に風が弱かったりは脚力を使って、状況に合わ せながらメリハリを利かせて踏み込んでいくようにし ています。こうするとターンも加速していくし、後半 の失速も少ない。リップアクションをはじめ、マニュ -バー全体の切れもでてきますから」

ボトムターンはマニューバ の踏み込み。その良し悪 全体を決めてしまう 本的にフル加速してから、 リハリの利いたフ





# NT GO AHEAD

思い切りよく突っ込む、そのマインドが大切

スピードアップするにも、メリハ リを付けていくにも、精神面も重 要な要素だ。冷静な中にも、常に 攻めていく気持ちや思い切りのよ さを忘れないことが大切。

普通のライダーが、松井流のスピードにのったボト ムターンをマスター使用とする時、技術的なアプロー チだけでは、なかなか実現するのは難しい。彼は大切 なポイントとしてマインドを挙げた。

「スピードを付けることや、メリハリをつけること とも関係しますが、やっぱり思い切りよく突っ込んで いくことを、恐れてはダメですね。僕もフィンが抜け るかもしれないなんて考えていたらうまく出来ません から、冷静な中にも攻めていく気持ちは持つようにし

「なかなかボトムターンのスピードが上がらない人 は、どうしてもどこか怖じ気づいている気持ちがある と思うんですよ。それはジャイブでも同じではないで しょうか。ジャイブではスピードだけですが、ボトム ターンになると、波に乗ることによって急激なスピー ドアップや、何よりも波があるわけで、サイズが大き くなれば、それだけで恐くなったり、身も心も固くな ったりするものです。最初は仕方がないとは思います が、ある程度慣れてくるまでは、思い切りの良さや突 っ込んでいく気持ちを、特に忘れずにいてほしい」









今までよりイージーにバーチカルなアプローチがしやすくなったことも、コンケ ブボードの特徴の一つ。失速しにくいコンケーブならではの深いボトムターン(下 の写真参照)から、オートマチックな感覚で上がっていく。またリップでのボード の返りも、波とのタイミングが合った時は特に、ボトムに波のパワーがフルに伝わ るため、素早く急激にボードが返ることもコンケーブならでは。これによってタイミングが遅れてもボードが返るので、より際どいタイミングで、深い厳しくリップ

を攻めることが可能になった。

### STYLE for **CONCAVE BOARD**

コンケーブになって変わったこと

松井は今年クアトロに移籍した。それまで主にフ

ラットVというボトムデザインに親しんできた彼が、

コンケーブというウェイブボードのデザイントレンド

を生み出したクアトロのボードに変わって、当然マニ

「ボトムターンに限らず、深いマニューバーがしや

すくなりましたね。Vボトムも傾けやすいのですが、

形状的に水を逃がしていくタイプですが、コンケーブ

は逆に水をとらえていくタイプで、バターにナイフが

入るようにサクッと水をとらえていく。一度フロント

ューバーも少し変化を見せている。

にラインがブレずにきれいにカービングしていきます。 だがら必要以上にフォアレイキを意識しなくてもスピ ードが落ちず、ボトムターン後半でも失速せずにカー ビングが続いていくので、より懐深くトップに入って いくことが可能になりました。また、上がっていく時 もレイルが入っている感じで、スーッとオートマチッ

リップでのアクションも違うようだ。

ワーが逃げないでフルにボードに伝わるから、ボード が返るスピードも速いんです。だから今までよりタイ ミングが遅れても、バシッとボードが返ってくる。レ イルを切り返すタイミングが遅くていい分、バーチカ ルに突っ込んで、際どくポケットを攻めても、メイク できるし、今まであきらめていた下の方のリップも、 コンケーブなら大きく下らせてからでも深く入ってい けます。ただ、ボードのレスポンスが速いので、その 速い動きに今まで以上に身体をついていかせることを 意識しなければなりませんが|

の方までレイルが入ると、そのレイルロッカーどおり クな感覚でアプローチできます」

「リップにボトムが当たったときも、やはり波のパ







コンケーブボードになって、このよ うなスピードに乗った深いボトムタ ーンが楽に出来るようになった。フ ロントレイルまできっちり入ると、 ブレのない深くシャープなラインが 描ける。この深さが続くリップへの バーチカルなアプローチにつながる。